

## 2020年サクラだより 2

## \*サクラ類の休眠打破について、

一般に、温帯域の落葉樹は寒く、乾燥する冬季を“冬芽（越冬芽）”という姿でしのぎ、春期に開花や展葉します。ソメイヨシノなどのサクラ類もその例外ではありません。前年の秋に生成された冬芽が目覚めることを「休眠打破」といい、一定の低い温度と期間を必要とします。一般的には落葉広葉樹では「休眠打破」には 7℃以下の期間が800～1000時間程度必要と言われていています。ただし、このような「休眠打破」に必要な条件は樹種によって異なり、正確に数値化された報告は見当たりません。

わずかに、ナシの場合は7.2℃以下の期間が800時間以上必要との農事報告もありますが、サクラに関しては8℃以下とか2～7℃の温度期間が800～1000時間などの記述が見られますが根拠は不明です。ひと昔前までは、サクラの開花は列島を南から北上するといういわゆる「サクラ前線」が存在していましたが、現在では九州では南部の鹿児島や宮崎より北部の福岡や長崎、あるいは東京、名古屋などの都市部の方が開花は早くなって来ています。恐らく、地球温暖化の影響で各地の冬季の気温が高くなって来ており、「休眠打破」の時期が遅れる地域が出て来ている為でしょう。

さて、右は大阪の12月～2月の冬季の日最低気温をまとめたものです。今年は平年の鹿児島なみの暖かい冬であったことが分かります。このような気温下では「休眠打破」はどうなるのでしょうか。また、開花日への影響はどうでしょうか？大阪の気温は大阪城公園という都会の真ん中で測定されており、皆さまのお住まいになっている地域とは異なるでしょう。

この意味でも、先にご協力をお願いしたサクラの開花や満開の期日

調査は地域によって異なってくる可能性があります。重要になってきます。

大阪の冬季・日最低気温（旬。℃）						
期間	平年	2020年	2019年	2018年	2017年	鹿児島
旬						平年
12月上	6.3	5.9	8.9	4.6	7.7	7.8
中	5.1	6.5	4.9	2.7	4.3	6.5
下	4.1	5.5	4.9	3.8	5.4	5.8
1月上	3.1	5.7	2.9	2.9	4.6	5.0
中	2.9	5.1	3.8	2.9	2.4	4.6
下	2.3	6.6	3.0	-0.1	1.9	4.1
2月上	2.4	2.5	4.0	1.7	2.8	4.7
中	3.1	6.0	4.1	0.5	2.6	5.9
下	3.4	(5.7)	5.9	1.7	3.2	6.9
桜開花日	3月28日		3月27日	3月20日	3月30日	3月26日
桜満開日	4月5日		4月4日	3月26日	4月6日	

## \*沖縄地方の「ヒカンザクラ」の休眠打破についての考察

サクラだより1.で奄美・沖縄の生物観測の標準樹種である「ヒカンザクラ」の今年の開花状況をお知らせ致しました。さらに、この地区のここ10年間の開花日を調べてみますと、名瀬（奄美）では、最も早かったのが1月14日、遅かったのが1月30日、沖縄では12月28日—1月22日、宮古島では1月7日—2月7日、石垣島では12月24日—1月29日と南へ行くほどばらつきが大きくなっています。また、開花から満開に至る期間も南に行くほど長くなるようです。

なぜ、このような現象が出て来ているのでしょうか？

「ヒカンザクラ」の原産地は、中国南部及び台湾ですが、台湾での自生は平地では見られず海拔500m

～2200mの山地で見られるそうです。台湾の平地部で見られないのは冬芽が「休眠打破」されない為と考えて間違いないでしょう。

石垣島は台湾の台北とほぼ同緯度です。沖縄地方はヒカンザクラの南限？に相当し、その年の晩秋～初冬の気温如何で「休眠打破」の時期が左右される結果「開花」時期が変わってくるのでしょう。

なお、「休眠打破」という現象は、全ての冬芽が同時期に一齐に目覚めるのではなく、花の蕾の生成と同じくある一定の期間に順次目覚めるのでしょう。この、期間は多分低温側では短く、高温時は長く、場合によっては一部しか「休眠打破」されないケースも出てくると考えられます。

このように考えれば、たより1でお知らせした、今年の石垣島での観察、沖縄地区での開花一満開までの期間の長さ、未だに満開期日の報告がない石垣や宮古島の開花状況も、今年はこの地方も例外ではなく秋季の気温が高く推移した為、「休眠打破」が異常であったと考えればよいでしょう。

### \*問題です。右の写真は何でしょう？

2月14日に、武田尾で採取し、室内で花瓶にさしておいた、ヤマブキの冬芽です。本日で、10日経過した姿です。開花には至っていませんが、蕾も葉もみられますね。よく見ると開いた“芽”は2ヶあとは動いていません。この枝には「休眠打破」された芽と、されていない芽があるようです。前述の休眠打破は一どきにおこるのではなく、順次であるという仮説を証明していると思います。なお当家の居間は昼間は24℃、暖房を切った朝一番で18℃程度、平均は22℃程度と思います。この手法で冬芽が「休眠打破」されていれば野外に先立ち花が見られます。2月初旬にマンサクとサンシュウの枝を同様に生けておいたものは4、5日ですべての蕾が開花しました。これ等の花芽は完全に「休眠打破」されていたのでしょう。

このように冬芽のついた枝を切り取り、冷蔵庫に入れて強制的に「休眠打破」したり、休眠打破した枝を15～25℃で促成開花させる等の手法で、開花時期を調整出荷する方策は切花生産業界では普通に行われている行為のようです。通常3月上旬に開花するケイオウザクラやボタンザクラの等の園芸種は花期を調整し1～3月末の長期に出荷されているとのこと。

なお、この手法は開花時期を促進するだけでなく、冬芽が「休眠打破」されているか否かの判定や、打破された芽の割合等を知る手段に使えると思います。現在、近くの公園から2月始めから5日ごとに、ソメイヨシノの枝を1本頂戴して来て花瓶にさしています。「休眠打破」が何時おこるのか見て行く予定です。また、同時にヤマザクラも3点ほどい生けています。結果が出ればお知らせします。

皆さまも簡単な手法ですので試されては如何でしょう。

以上

